様式１（専門職によるアドバイス支援事業 依頼書）

企業等

平成29年1月27日

公益財団法人テクノエイド協会　殿

（依頼者）
〒161-8560
住所　東京都新宿区西落合　1-31-4
事業者名　日本光電工業株式会社
担当者所属　リレーションビジネス推進部 ウェルケア営業部
担当者名　小林寛典
電話番号　03-5996-8043
電子メールアドレス　Hironori_Kobayashi@mb1.nkc.co.jp

専門職によるアドバイス支援事業 依頼書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う、介護ロボット等の「専門職によるアドバイス支援事業」について、下記の書類を提出して依頼します。

記

１．専門職によるアドバイス支援事業　依頼概要書（別紙）

２．会社概要（任意様式）

３．これまでの福祉用具・介護ロボットの開発実績がわかる書類（任意様式）
※実績がない場合は、提出不要

（書類の取り扱い等について）

- ご提出いただく「専門職によるアドバイス支援事業　依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「専門職によるアドバイス支援事業　依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、適切なアドバイスが行える介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知ください。

（別紙）

平成29年1月27日

専門職によるアドバイス支援事業　依頼概要書

１．事業の種類（いずれか希望する方に○印を付けるか、事務局までご相談ください。）

１．介護職員等との意見交換	○
２．専門職によるアドバイス支援	

２．依頼者の概要

企業名	日本光電工業株式会社	
担当者名	小林　寛典	
担当者連絡先	住所	〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
	電話	03-5996-8043
	電子メールアドレス	Hironori_Kobayashi@mb1.nkc.co.jp
主たる業務	医用電子機器の開発・製造・販売	
主要な製品	生体計測機器、生体情報モニタ、治療機器その他	
希望する施設等の種類・職種等	関東地区の有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅　等	
その他		

３．機器開発コンセプトあるいは試作機の概要（可能な範囲でご記入ください）

機器の名称（仮称）	みまもりテレケアシステム「SUKOYAKA」施設版	
試作機の有無及び機器のコンセプト（試作機あれば写真を添付）	試作機の有無	１．有り　・　(２．無し)
	機器の目的及び特徴 センサによって高齢者施設入居者の生活リズムや生活環境をデータ化し、万一のケースはもちろん、「何かある前」の対応を可能にするみまもり機器。自立支援介護に寄与し、スタッフの負荷軽減にも役立つ製品としたい。 	
想定する使用者及び使用方法、使用環境	使用者、使用方法、使用環境 使用者：高齢者施設スタッフ（被使用者は一定の動きがある入居者） 使用方法：居室に非接触端末を設置し、入居者がどのような環境でどのように過ごされているのかをスタッフがPCやタブレット端末により確認する。 （3G回線利用のため、施設内LAN環境等は必要ない。また、データ閲覧にはインターネット閲覧環境があれば、その端末の種類は問わない。）	

現在の開発状況と課題	現在、在宅個人ユーザ向けの製品はリリース済みである。 これを改良し施設内でご利用いただくには、どのような機能を拡充すればよいかを明らかにすること。
特にアドバイス（意見交換）を希望している事項	施設における見守り機器のニーズのご教示 施設における見守り機器の改善要望点のご意見 本製品に追加する機能の候補に対するアドバイス
その他	

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

主な仕様

●ホームステーション TE-101I

寸　法	本体　幅77.6×高さ230.9×奥行63.6mm 台座　幅100.0×高さ16.0×奥行100.0mm
質　量	422g(台座・ACアダプタ含む)
ACアダプタ	9.0V　2.0A

●活動量計 TW-101I

寸　法	幅75.0×高さ33.5×奥行10.8mm
質　量	約26g(電池含む)

●SUKOYAKAウェブサイト
https://www.sukoyaka.ne.jp/

●お客様相談窓口
0570-000-200

日本光電について

日本光電(東証一部上場　証券コード:6849)は、1951年の創立以来、医用電子機器のトップメーカとして、数々の医療機器を世界中の医療現場へ提供してきました。その活躍の場は、臨床医療の場をはじめ、救急医療、在宅医療・介護、健康増進の場へと広がっています。

本サービスは緊急通報や生命監視に使用できません。
本カタログの画面例・記録例には原則として架空の人名を使用しています。
顔写真は本人の同意を得て使用しています。
都合により外観・仕様等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

このカタログは、「植物油インキ」「水なし印刷」を使用しています。

販売名：みまもりテレケアシステム SUKOYAKA

日本光電
日本光電工業株式会社　東京都新宿区西落合1-31-4 〒161-8560
03-5996-8000(代表)　Fax 03-5996-8091
http://www.nihonkohden.co.jp/

資料No. N65-003　CAT.NO.65-004　'15.11. DNP. BO. 8449

NIHON KOHDEN

健康増進・未病管理のための

みまもりテレケアシステム

SUKOYAKA®

やさしくみまもる。いつでもつながる。

やさしくみまもる。
いつでもつながる。

一人暮らしの高齢者をやさしくみまもりながら、
健康増進・未病管理にも役立つサービス、それが「SUKOYAKA」です。
各種センサを内蔵したホームステーションが生活のリズムをみまもり、
「もしも」の時はご家族にお知らせします。
高齢者の健康づくりのサポート、
ご家族や地域コミュニティとのきずなをつなぐ等、
健やかな毎日を送るためのお手伝いをします。

SUKOYAKA®
4つのあんしん

生活リズムをやさしくみまもります
「高齢者の健康な毎日のサポートにあんしんをプラス」

お部屋の環境をモニタリング
「高齢者が気づきにくい変化を感知、ご家族にお知らせ」

健康づくりのおてつだい
「いつまでも元気で、健やかな毎日を」

つなぐ、家族、コミュニティ
「いつでもつながる家族のきずな」

つなぐ、家族、コミュニティ

はなれて暮らしていても、
お知らせメールやサービスサイトで、
日々の生活をやさしくみまもり、
大切な人の「もしも」に備えます。

ご自宅に設置

ホームステーション TE-101I

センサーが活動度、温度・湿度・照度を測定し、データを自動的にシステムへ送信します。

通知ボタン
ご家族などへ一斉にメールを送信します。

おでかけのとき

活動量計 TW-101I

外出時は活動量計をかばんやポケットに入れ、歩数や中強度活動時間を測定します。

帰宅したら、活動量計をホームステーションに差し込みます。

設置例

ホームステーションは、居間など、普段の生活で一番長く過ごされる場所に設置します。水平方向:199° 垂直方向:82° 距離:5mの範囲をカバー。高齢者の生活パターンの80%以上を一台でカバーすることが可能です。

※ホームステーションの通信にはSoftbankの3G回線を利用しており、エリア内でのサービス提供が可能です。
※設置位置・電波状況等により、ご利用になれない場合があります。

通知ボタンが押されたとき
設定した内容を検知したとき

Eメール

SUKOYAKA® システム

インターネットで
サービスサイトにログイン

インターネット

お知らせメール

SUKOYAKAはさまざまなお知らせ機能を搭載。みまもられる方が通知ボタンを押した場合や、設定した内容を検知した場合などにご登録のアドレス全員にメールでお知らせします※。

- ホームステーションに搭載している通知ボタンが押された場合
- 体調の変化の予兆など、活動度の大きな変化を検知した場合
- 温度・湿度など環境情報から熱中症リスクが高まった場合
- 一定時間室内活動度が検知されない場合
- 電源未接続・故障・圏外などにより、一定時間通信が途絶えた場合　など

※お知らせメールの送付先は最大20名まで登録できます。

お手持ちの携帯電話・
スマートフォンなどにお知らせします。

SUKOYAKAサービスサイト

お手持ちのパソコン、タブレット、スマートフォンなどからサービスサイトにログインすることで、いつでも各種リポートをご覧になれます。

- 生活リズムリポート
- 運動リポート
- 環境リポート
- カレンダー機能
- 近況報告(伝言版機能)
- 月間リポート
- 健康レシピ

など

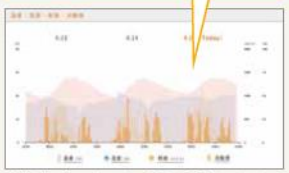
「いつもとちょっと違う」がわかる!

グラフの変化で、みまもられる方の健康や居住環境を把握することができます。

「体調の変化で、寝室にいるのかしら?」
「今日はどこかに出かけているのかしら?」

生活の変化をわかりやすく表示しており、急激な生活リズムの変化を把握できます。

「温度が高いなかで、過ごしていないかしら?」
「快適な環境で過ごしているかしら?」



高齢者が気づきにくい「暑さ」「寒さ」など、居住環境をやさしくみまもることができます。

本サービスは緊急通報や生命監視に使用できません。

日常生活で継続できる健康づくり

SUKOYAKAには、日常生活で継続できる健康づくりをお手伝いする機能として、活動量計を用いた健康増進機能があります。
東京都健康長寿医療センター研究所 青柳幸利博士の「高齢者の日常的な身体活動と健康に関する研究（以下、中之条研究）」成果に基づき、現代の日本で問題とされる20の疾病・病態に対して「参考予防度」を表示します。“どのような運動を”“どれだけ実施”すればよいかがわかり、日々の健康増進にお役立ていただけます。

中之条研究とは

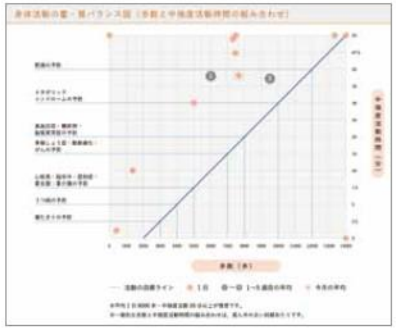
中之条研究は、身体活動（歩き）と病気予防の関係について、群馬県中之条町で行われた疫学研究です。中之条研究の最大成果は、健康維持・病気予防・健康寿命の延伸には「その人の体力に応じた中強度の活動」が欠かせないと明確に示したことです。中之条研究では、最終的に現代の日本で問題とされる20の疾病・病態に対し調査を行い、それぞれに予防基準を示しました。

医療監修：青柳 幸利 博士（Yukitoshi Aoyagi）
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所

トロント大学大学院医学系研究科博士課程修了、医学博士取得。カナダ国立環境医学研究所温熱生理学研究グループ・研究員、奈良女子大学生活環境学部・助手および大阪大学医学部・非常勤講師等を経て、現在、東京都健康長寿医療センター研究所・研究副部長。高齢者の運動処方ガイドラインの作成に関する研究に従事し、種々の国家的・国際的プロジェクトの主要メンバーとして、先進諸国の自治体における老人保健事業等の展開を支援している。近著に、『一日一万歩はやめなさい！』廣済堂出版、『運動しないで長生きできる！「メッツ健康法」』宝島社、『なぜ、健康な人は「運動」をしないのか？』あさ出版、『あらゆる病気を防ぐ「一日8000歩・速歩き20分」健康法』草思社、など多数。

健康づくりリポート

健康づくりリポートでは、ご自身の運動状況が、疾病予防に対してどの位置にいるかがわかります。
20の疾病・病態の参考予防度と共に、歩数を増やせばよいか、中強度活動時間を増やせばよいか、わかりやすく表示します。



疾病・病態の解説

健康づくりリポートで、参考予防度が示される20の疾病・病態は、がん、脳卒中、心疾患、高血圧症、高血圧、動脈硬化、脂質異常症、糖尿病、高血糖、肥満、メタボ（75歳未満）、メタボ（75歳以上）、筋減少症、体力の低下、骨粗しょう症、骨折、寝たきり、うつ病、認知症、要支援・要介護です。それぞれの疾病・病態について、原因、症状、診断、治療、日常生活の注意など、わかりやすい説明をご覧になれます。

健康レシピ

さらに、疾病予防に役立つ健康レシピをご紹介。主菜、副菜、スープ等の料理別、また野菜や肉類といった食材別に、500種類以上の豊富なレシピから検索できます。運動面だけでなく、食事面からも健康づくりのお手伝いをいたします。

SUKOYAKA® サービスサイト

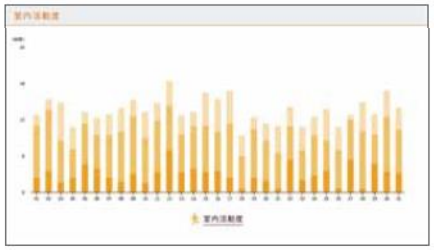
SUKOYAKAのサービスサイトでは、各種リポートをご覧になれます。

トップページ

トップページでは「どんな環境で過ごしているのか」ひと目でわかります。また前日、前々日と比較して活動度の変化はないかなど、みまもられる方の「いつもと違う」をみつけることができます。

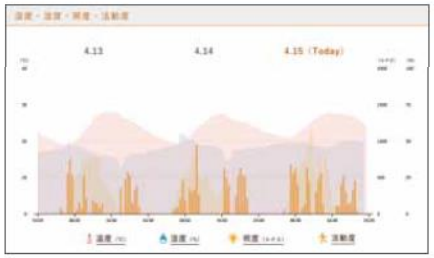
運動リポート

屋内と屋外の活動がひと目でわかります。また、活動量計を用いた健康増進・未病管理機能で、日常生活で継続できる健康づくりを応援します。



環境リポート

直近3日間の室内活動度・温度・湿度・照度がひと目でわかります。高齢者が気づきにくい「暑さ」「寒さ」など、居住環境をやさしくみまもります。



伝言板機能

みまもる方・みまもられる方全員で情報共有できる伝言板機能。配信されたお知らせメールの内容確認はもちろん、日々のコミュニケーションツールとしてもご活用いただけます。

生活リズムリポート

生活リズムがひと目でわかります。生活リズムの乱れには、体調変化や疾病の前兆が隠れている場合があります。過去の生活リズムとの比較もでき、「いつもと違う」をみつけることができます。

CORPORATE PROFILE

Fighting Disease with Electronics

NIHON KOHDEN

このパンフレットは、「標林木パルプを使用した用紙」「植物油インキ」「水なし印刷」を使用しています。

日本光電

日本光電工業株式会社 東京都新宿区西落合1-31-4 〒161-8560
03-5996-8000(代表) Fax 03-5996-8091

http://www.nihonkohden.co.jp/

SP51-002C '16.7. SCR. Dce. 8704

Fighting Disease with Electronics

エレクトロニクスで病魔に挑戦

医学と工学の接点を求めて

ME、それは医学と工学の出会い。
未だME（Medical ElectronicsあるいはMedical Engineering）という言葉が
生まれる以前、戦争末期の昭和19年頃から日本光電の胎動は始まっていました。

創業のきっかけとなったのは、小鳥の翼の神経筋を使った電気刺激実験。
当時、電子工学を研究していた創業者 故荻野義夫は、偶然目にした実験で、
「生体の一部分が、日本中の電気の大家が研究した装置の何百分の一の大きさで
しかも感度は2桁以上」という生物の驚異に感動を受けたのです。
生物の中でも特に精巧な「人間」（＝医学）を学び、
生物のもつ精巧さを、より次元の高い工学へ応用できないか、
医学と工学の接点を研究することから、人の命を救うことができれば…。
その強い想いに動かされ、改めて医学を学び、
1951年8月に会社を設立しました。

「病を癒す…それは主義や国境を超えるもの。
どんなに情熱を注ぎ込んでも悔いはない」
このゆるぎない信念のもと、医療現場に根ざした技術開発で、
数々の革新的なME機器を送りだしてきました。

医療環境は変化し、日本光電が生み出す製品も多岐にわたってきましたが、
創業時の信念は、今も変わることなく受け継がれています。

これからも、この歴史の中で培った技術力を基に、
病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦し、
世界に貢献する企業として、成長を続けてまいります。

代表取締役会長兼CEO
鈴木文雄

代表取締役社長兼COO
荻野博一

The CHANGE 2020

−The Global Leader of Medical Solutions−

日本光電の経営理念、それは「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」ことです。この理念を実現するためには、医療現場に根差した技術開発でヘルスケアの課題に挑戦し、お客様に安全と安心を提供し続けることで、社会に貢献するとともにグループを持続的に発展させ企業価値を向上させることが不可欠です。そこで、当社では、2020年を展望した「長期ビジョン」と、2013年度から2016年度までの4ヵ年を見据えた中期経営計画「Strong Growth 2017」という2つの経営計画を策定しています。

長期ビジョンでは、The CHANGE 2020 -The Global Leader of Medical Solutions- をキャッチフレーズに、３つの目指すべき将来像を規定しています。

世界初の革新的技術の確立
世界最高品質の確立
グローバルシェアNo.1の獲得

この将来像を実現するために、さらに中期経営計画では、
6つの重要課題に積極的に取り組んでいます。

重 要 課 題

1. 世界トップクオリティの追求
2. 技術開発力の強化
3. 地域別事業展開の強化
4. コア事業のさらなる成長
5. 新規事業の創造
6. 企業体質の強化

Total Support

救急医療からリハビリまで、トータル サポート

救急現場、検査、診断、治療、リハビリ……。臨床医療のそれぞれの場面で、
最先端の技術と製品によってサポートするのが日本光電の使命です。
さらに在宅医療・介護、健康増進や基礎医療の研究分野など、
日本光電の製品は幅広い分野で活躍しています。

プレホスピタル（救急医療）

一刻を争う救急現場に対応する医療機器で
救命率アップに貢献

検査、診断

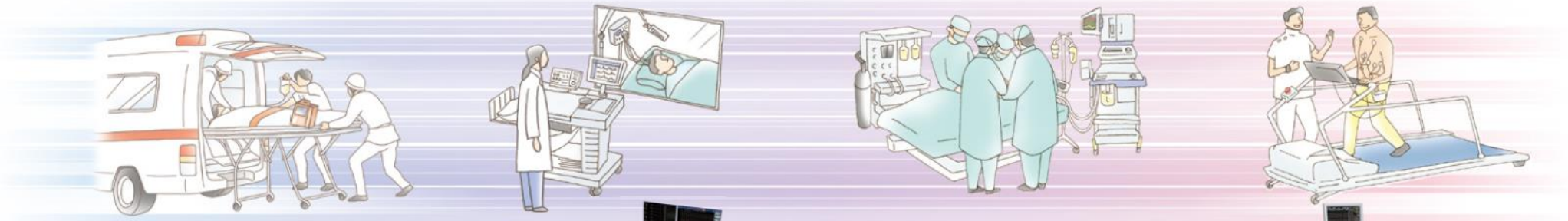
高い技術が生んだ、より正確で
「痛くない、負担が少ない」検査装置の数々

手術、治療

高度医療による手術や治療に
不可欠な医療機器を開発・導入

リハビリ

社会復帰を目指す患者さんそれぞれに
対応したシステムや機器を用意



半自動除細動器

救急車搭載モニタ

心電計

臨床用ポリグラフ

生体情報モニタ

デフィブリレータ

運動負荷心電図測定装置

トレッドミル

製 品 群

生体計測機器

日本光電では、コア技術である「センサ技術」を駆使し、身体の発する微弱な情報もキャッチする、優れた"生体計測機器"を提供し続けてきました。主な機器には、脳波計、心電計、筋電図・誘発電位検査装置、心臓カテーテル用検査装置等があります。特に、てんかん、睡眠障害などの診断に欠かせない「脳波計」は、世界で高いシェアを誇っています。

脳波計

生体情報モニタ

心電図、体温、SpO_2（動脈血酸素飽和度）、NIBP（非観血血圧）等、患者さんの生体情報を連続してモニタリングする生体情報モニタは、集中治療室（ICU/CCU）や手術室、一般病棟など、さまざまな医療現場で活用されています。日本光電では、かかりつけ医向けの簡易モニタから病院内の搬送用モニタ、集中モニタリング機能を備えた高度なモニタリングシステムまで、幅広いノウハウをベースに、製品開発を進めています。

生体情報モニタ

治療機器

救急蘇生用の除細動器は、心室細動になった心臓に電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための治療機器です。日本光電は、院内や救急現場で使用する除細動器と一般の方が使用できるAEDを開発・生産しています。また、植込み型心臓ペースメーカや人工呼吸器、人工内耳など、世界トップレベルにある海外製品の導入販売にも力を注いでいます。

自動体外式除細動器

その他

検体検査分野では、血液中の血球数を測定する血球計数器と測定に必要な試薬を開発・生産し、測定精度の向上に取り組んできました。糖尿病の診断指標でもあるヘモグロビンA1cとC反応性蛋白を測定できる臨床化学分析装置も提供しています。
また、研究用機器も自社開発し、性能の向上に努めています。

全自動血球計数器

Challenge - innovative technology

革新的技術の確立を目指す、あくなき探究心

未解明の疾病の研究、有効な治療法の開発、検査に伴う負担の軽減など、
日進月歩する医療の世界では、常に技術の進歩が求められています。
世界初の技術を次々に開発してきた日本光電では、創業者の精神を胸に刻み、
1ミリの差にもこだわり、果敢にチャレンジしています。

SpO_2測定

CO_2センサ

パルスオキシメータ　*世界の医療現場に普及*

動脈血中に含まれている酸素（動脈血酸素飽和度：SpO_2）を測ることは、体内循環を知るうえで大変重要です。かつては動脈血を採血しなければ測定できませんでしたが、指先または耳たぶにセンサをはめるだけで測定可能なパルスオキシメータの原理を1974年に発明し、翌年世界初の製品を発売しました。「痛みを伴わず」「リアルタイムに」「連続して」測定できるという画期的な技術は現在、手術中の事故防止、新生児の管理など、世界中のさまざまな場面で活躍しています。

CO_2 センサ　*常識を覆す測定方法*

2003年、メインストリーム式で、挿管していない患者さんに使用できる超小型CO_2センサを世界で初めて開発しました（特許取得）。患者さんの負担を少しでも軽くするため、センサは世界最小の4g（センサ部のみ）。日本光電独自の測定方式によって、最小限の部品でCO_2分圧測定を実現しています。

esCCO　*患者さんの負担を大幅軽減*

2004年に産学連携による共同研究から、心電図とパルスオキシメータから得られる脈波の測定を行うだけで連続的に心拍出量を測定できる新技術（esCCO: estimated continuous cardiac output）の開発に成功しました。従来は、カテーテルを肺動脈まで挿入しないと測定できなかった心拍出量を、患者さんに苦痛や負担を与えることなく、簡単に連続的に測定できます。2011年に欧州での販売を開始し、さらなる応用分野の開拓を目指して臨床研究を継続しています。

グローバルな開発体制

開発の拠点を海外にも置き、米国のNKUSラボではME先進国の最先端の情報を取り入れ独創的な開発を、デフィブテックでは救命救急分野における開発を、ニューロトロニクスでは睡眠解析ソフトの開発を、オレンジメッドでは人工呼吸器の開発を、日本光電イノベーションセンタでは革新的な研究テーマを継続的に探求し、新事業につなげるためのトランスレーショナルリサーチ*に取り組んでいます。
上海光電医用電子儀器では、新興国市場向け普及機や、ソフトウェアの開発に注力しています。

*トランスレーショナルリサーチ
研究で発見された基礎的な知見や技術について、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していく研究過程のこと。

Production

高い品質と信頼性を目指したモノづくり

世界に誇る高い品質と安全性を備えた医療機器を生産するための、
一貫した取り組みと強いこだわり。
それが私たちのモノづくりを支える原動力であり、私たちの製品が選ばれる理由でもあります。

自社生産へのこだわり

主要製品は最新の生産工学に基づいたレイアウトと、品質を守るための生産環境が整えられた富岡生産センタ（群馬県富岡市）で生産されています。品質を維持管理する体制を構築するために、プリント基板など製品の機能性能・品質を決定づける重要部品は社内生産し、高度な技術と生産ノウハウの蓄積、品質の確保を図っています。本体組立は作業者一人ひとりがモノづくりに責任を持つセル生産方式を採用し、徹底した品質検査を工程ごとに行うことで、より高い品質と信頼性の向上につなげています。
川本事業所（埼玉県川本市）では、医療機器そのものの性能を左右する電極やパッド、センサなどの患者さんとの接点となる製品を生産しています。電極の仕様に合わせた自動製造機を自社製作し、効率のよい生産体制を確立しています。私たちは自社開発・生産にこだわり、"人間と機器の接点"を大切にしたモノづくりを行うことで、新しいセンサや医療に有用なパラメータを創造し、高い臨床価値と信頼性を実現しています。

海外生産体制の特長

海外には現在、5つの生産拠点があります。上海光電医用電子儀器では心電計、生体情報モニタ、検体検査機器などの普及機や試薬を生産、日本光電フィレンツェ、スバン日本光電ダイアグノスティクスでは検体検査試薬の生産を行い、高品質な純正試薬を安定供給する生産体制を確立しています。日本光電マレーシアでは生体情報モニタの普及機を、デフィブテックでは救命救急医療機器を生産しています。

国内生産拠点

富岡生産センタ：医用電子機器の生産
富　岡　工　場：試薬類の製造、物流センタ
川 本 事 業 所：ディスポ電極の開発・生産、センサ類の生産
日本バイオテスト研究所：免疫試薬の生産

富岡生産センタ

海外生産拠点

上海光電医用電子儀器：医用電子機器の開発・製造・販売
日本光電フィレンツェ：検体検査試薬の製造・販売
スバン日本光電
ダイアグノスティクス：検体検査試薬の製造・販売
日本光電マレーシア：医用電子機器の製造・販売促進
デ フ ィ ブ テ ッ ク：医用電子機器の開発・製造・販売

Approach on safety and quality assurance

世界が認める品質と安全性を届けたい

医療の最前線を支える医療機器には、極めて高度な品質と安全性が要求されます。
私達は早くから世界水準の品質マネジメントシステムへの適合を推進し、
世界が認める品質と安全性の提供を進めています。
お客様から「信頼されるパートナー」として支援され続ける企業を目指しています。

日本光電の品質方針

「日本光電の製品を買って良かったと
お客様にのちのちまで
満足していただける状態を保つこと」

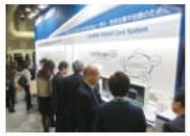
品質管理への取り組みとその成果

一貫した品質マネジメントシステムを構築

医療機器の製造販売には、各国で厳しい規格や法令で規制が行われています。日本では医薬品医療機器法、欧州では医療機器指令（93/42/EEC）、米国では食品医薬品局（FDA）が設けた品質システム規則QSR、カナダではカナダ医療機器規則やカナダ規格協会（CSA）の品質基準、中国では国家食品薬品監督管理総局（CFDA）の規則などがあります。日本光電はこれらの規制に対応するのはもちろん、開発、生産からアフターサービスまで、一貫した品質マネジメントシステムを、ISO9001およびISO13485に基づいて構築し、数多くの認証や認定を受けています。製品をご購入時に納得していただくのはもちろん、使い続けていただく間ずっと満足し続けていただきたい。それが私たちの目指す品質です。

安全性の向上を医療技術の普及からサポート

急速に進歩していく最新の医療機器を、すべての医療現場で正しくご理解いただき、安全に使用していただきたい。そうした思いから、医療技術普及のお手伝いに力を入れて取り組んでいます。



●医学会併設展示会への出展

各地で開かれるさまざまな医学会で、最新の医療機器を展示・紹介しています。

●全国各地で有意義なセミナーを開催

医療従事者の皆様を対象として、学会共催セミナーおよびバイタルサインセミナーなどを開催しています。毎回、著名な先生方を講師としてお迎えして行う講演は、大変意義深い内容となっており、多くの皆様からご好評をいただいています。

海外でも高い顧客満足度を獲得！*～米国で９年連続トップの快挙～*

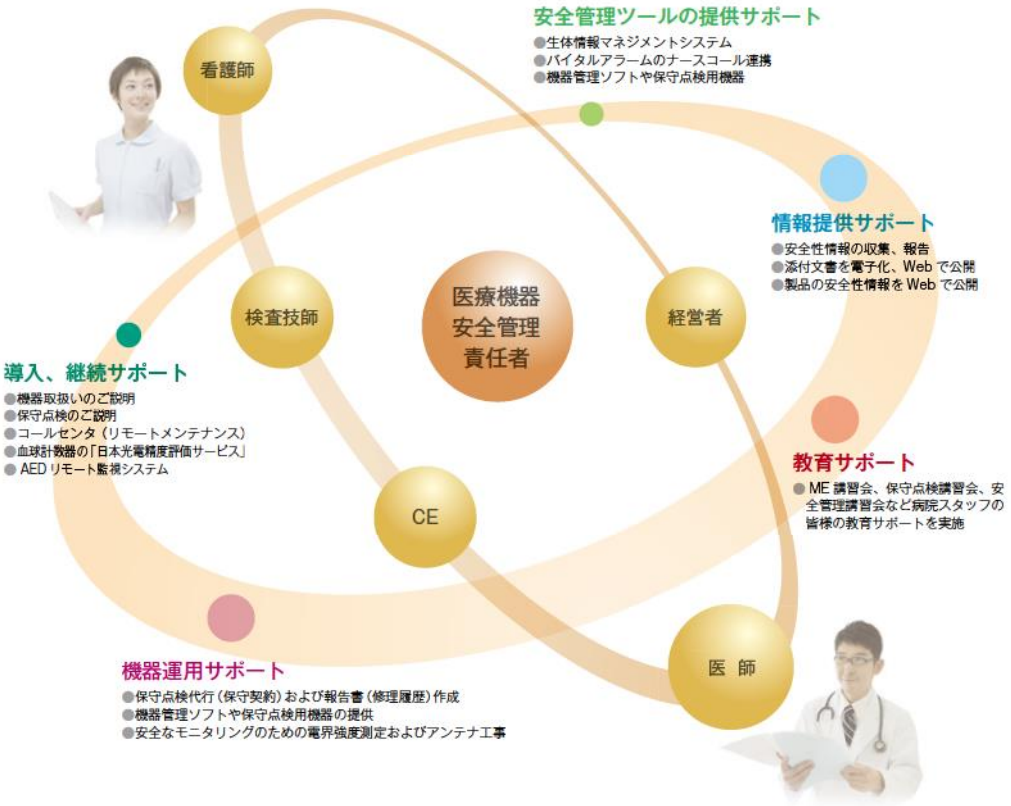
米国現地法人、日本光電アメリカは米国の市場調査会社 MD Buyline社が2016年4月期（Q1）に発表した生体情報モニタの顧客満足度調査において、9年連続トップを獲得しました。MD Buyline社はダラスにあるヘルスケア関連の市場調査会社で、四半期毎に米国各地の病院や検査センターの技術者や臨床医を対象に顧客満足度調査を実施しています。調査では特に、当社製生体情報モニタのシステムの性能および迅速なサービス、製品トレーニングについて高い評価を得ました。

安全管理のためのサポート体制

日本光電では「医療安全の確保」に取り組むすべての医療機関の皆様に当社の医療機器を安全にご使用いただけるよう、導入から保守点検にいたるまで、迅速な対応やきめ細かなサービスを提供。万全のサポート体制を構築しています。

安全管理担当者を全国に配置

医療機器情報コミュニケータ（MDIC）の認定を受けた専任の担当者を全国に配置。製品を正しくご使用いただくためにユーザー向けの安全講習会を開催しています（2015年度実績：1,751回）。
また、保守点検のアドバイスや安全管理情報の提供など、予防的な安全のための活動を推進しています。



Nihon Kohden's global network

グローバルに広がる日本光電のネットワーク

『世界』を視野に構築する事業体制　*製品の開発から、生産、販売、アフターサービスまで*

世界各地で多くの人々が病魔と闘っています。医療に国境はありません。一人でも多くの患者さんを最先端のME技術で救うため、日本光電のグローバルネットワークは年々拡大しています。販売拠点は、1979年の日本光電アメリカを皮切りに、メキシコ、コロンビア、ブラジル、ドイツ、フランス、スペイン、イタリア、イギリス、中国、シンガポール、タイ、マレーシア、インド、アラブ首長国連邦、韓国と、今では16カ国に展開。また販売拠点のない地域には代理店網を整備し、世界中に日本光電製品を輸出しています。6カ所の海外開発拠点、5カ所の海外生産拠点とともに、拡大していくワールドマーケットに対応できる事業体制構築に努めています。

世界各国で活躍する日本光電製品

数ある輸出製品のなかで、高いシェアを持つ脳波計のほか、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、生体情報モニタ、除細動器、AED、血球計数器などを世界120カ国以上に輸出し、世界各国の医療現場でお使いいただいています。国や地域によって、必要とされる医療機器はさまざまです。今後も、こうした医療ニーズや地域特性を見極めた事業戦略を展開し、グローバルシェアNo.1を目指します。

Corporate Social Responsibility

企業の社会的責任

CSRへのさまざまな取り組み

医療機器メーカとして、社会に貢献する企業であり続けるために、
日本光電はお客様、株主、お取引先様、地域社会、従業員など全てのステークホルダーとの調和を図り、
さまざまな CSR への取り組みを行っています。

スローガン

和文：大切ないのちのために 日本光電ができること
英文：NIHON KOHDEN - for precious life -

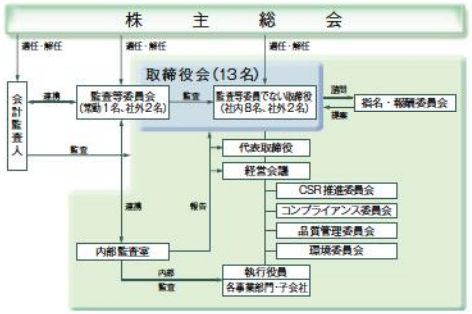
医療機器メーカとして、「事業活動や社会貢献活動を通して、人間の命だけではなく、地球上のあらゆる"いのち"に貢献します」という気持ちを込めています。

ロゴマーク

「大地」を示す緑と「空」を示す青を配置し、それらの境界に心電図の波形と双葉をあしらうことで、「自然と共にある日本光電」を表現しています。また、波形が「途切れることなく続いていく」というイメージによって、「サステナビリティ」を表現しています。

コーポレート・ガバナンスの充実

私たちは経営理念の実現に向け、商品、販売、サービス、技術、財務体質や人財などすべてにおいて、お客様はもとより、株主の皆様、お取引先様、社会から認められる企業として成長し、信頼を確立することを経営の基本方針としています。この経営の基本方針および当社グループの中長期的な企業価値の向上のため、経営の健全性・透明性・効率性の向上を目指す経営管理体制の構築により、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることが重要な経営課題であると考えています。経営監督機能と意思決定機能を取締役が担い、業務執行機能を執行役員が担う体制としているほか、独立性の高い社外取締役を選任し、取締役会における経営監督機能の強化を図っています。



コンプライアンスの推進と実践

公正で適切な企業活動を推進するため、当社グループの行動基準である「日本光電行動憲章」およびコンプライアンスの観点から遵守すべき行動の具体的なあり方を定めた「日本光電倫理行動規定」を、教育・研修を通じて当社グループの取締役および従業員に周知徹底しています。コンプライアンス委員会および各部門・各子会社のコンプライアンス推進者は、コンプライアンスの確実な実践を推進しています。また、コンプライアンスに係る相談・報告を受け付ける社内通報システムを運営し、不正等の早期発見と是正に努めています。市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然たる態度で臨み、一切の関係を遮断します。

株主・投資家との関わり

経営戦略や直近の業績動向などを多くの個人投資家の皆様にご理解いただくため、「個人投資家向け会社説明会」を定期的に開いています。また、年２回「株主通信」をお届けし、業績のご報告や新製品のご紹介などを通じて、株主の皆様との緊密なコミュニケーションに努めています。ウェブサイトには「ＩＲ情報」のページを設置し、多くの投資家の皆様に、迅速かつ公平な情報開示に努めています。当社の状況がひと目でご確認いただけるよう、事業内容や業績の概要を説明するとともに、経営戦略や財務データなど各種資料を掲載しています。

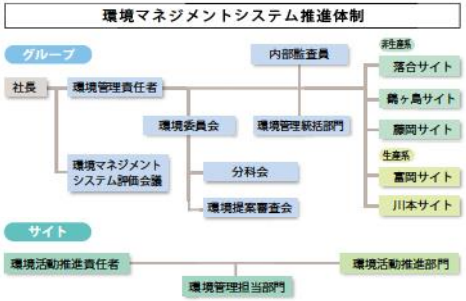
株主様向け富岡生産センタ見学会を開催

お取引先様との関わり

健全・公正な購買活動を行うとともに、お取引先様を含めたバリューチェーン全体での活動がより健全・公正なものとなるよう、調達方針および調達に関する基準を設定し、社内およびお取引先様への浸透を図っています。また、従業員一人ひとりが健全かつ公正な取引に関する正しい理解と意識を持ち、CSR調達基準を実践するため、全従業員を対象としたコンプライアンス教育の中で、公正競争規約や下請法等の理解と遵守の促進を行っています。

地球環境に優しい企業でありたい

年々厳しさを増す環境問題に対処することは、すべての企業に課せられた重大な責務です。日本光電は「すべての人々が豊かな生活環境を享受できるよう、あらゆる企業活動や社員行動を通して、かけがえのない地球環境の保全と質的向上に努める」という理念のもと、環境活動を推進し、CO_2排出量、廃棄物排出量の削減、地球環境に配慮した製品の開発と生産体制の構築などに取り組んでいます。国際規格ISO14001の認証も取得し、環境理念の実現に向けて、活動を続けています。



会社と個人が一丸となって取り組む社会貢献

2004年、一般の方の自動体外式除細動器（AED）使用が可能になり、日本光電では心肺蘇生とAEDの講習会をスタートしました。2009年6月には国産のAED-2100の販売も開始し、当社AEDの出荷台数は35万台以上を数えています。子会社のデフィブテック製AEDと合わせると、全世界での総出荷台数は60万台を超えています。2015年度の講習会は338回を数え、5,891人の方が受講され、除細動による救命件数も着実に増えています。東京マラソンではサポーティングスポンサーとして第1回大会からAEDを貸し出すとともに、社員が救護ボランティアとしてランナーの皆様をサポートしています。
また、東日本大震災では被災地への医療機器の提供や義援金の寄付、現地での支援活動にも協力しています。社員による海外青年協力隊への参加をバックアップする制度、骨髄移植や災害ボランティアの休暇制度など、企業の立場、個人の立場両面から積極的に社会貢献に取り組んでいます。

心肺蘇生とAED講習会

災害ボランティア

かえでちゃん
（CAEDE：CPR AED Expert）は、心肺蘇生とAEDの普及をお手伝いするキャラクターです。

働きがいのある職場の実現

真のグローバルカンパニーとして発展・成長を続けるには、社員一人ひとりが多様な価値観・発想を認め合い、能力を最大限発揮することで組織全体の力を向上させていく必要があります。この考えのもと、日本光電では「性別・障がい・国籍等にかかわらず、社員の多様性を企業の活力とし、新しい視点でのリソースを見出していく」ことを念頭に、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。今後も多様な人財を惹き付け、働きやすく働きがいのある企業をめざし、様々な施策を展開していきます。

女性従業員異業種交流会

Support network

ネットワークでサポート

お客様に、日本光電の製品をご購入いただいた後も、満足して使いつづけていただくために、
迅速な対応、きめ細かなサービスは欠くことのできないものです。
日本光電は、ユーザサポート体制の充実にも力を入れています。

全国 100 カ所を超える販売拠点

全国に11社の販売会社、124カ所の営業所を展開。お客様のニーズに対応し、地域に密着した営業活動を行っています。

全国にサービス拠点を展開

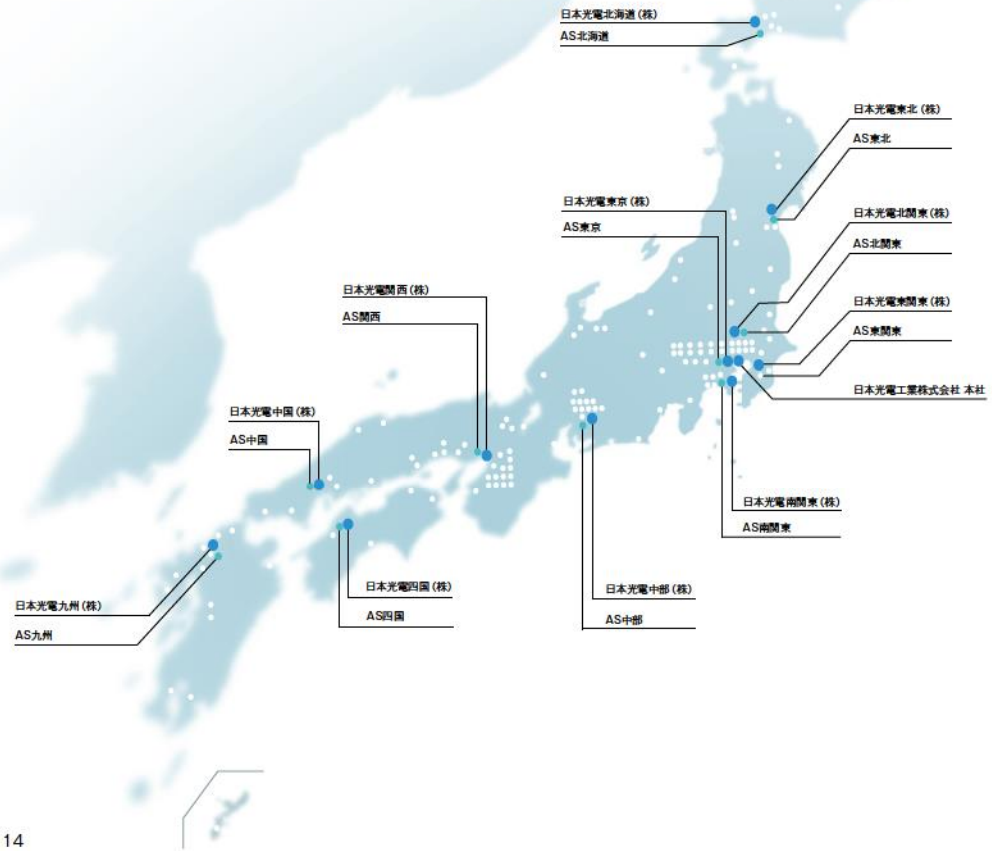
全国に11カ所のアフターサービスセンタ(AS)、69カ所のサービス拠点を展開。販売からアフターサービスまで、一貫したサポート体制を敷いています。

コールセンタで 24 時間 365 日対応

24時間365日お客様のシステムや製品に障害が発生したとき、直接お客様からお問合せを受けるコールセンタを設置しています。

充実したメニューのお客様向けME講習会

機器の使い方や機能を正しく理解していただくために、看護師、検査技師、救急隊員、代理店の皆様に、年間440回以上の講習会を、本社や全国各地の医療機関において開催。初心者の方からスペシャリストを目指す方まで、年間約1万5,000名以上の方に講習しています。



History

今までも、これからも進化するME

日本光電は、半世紀にわたり時代の先端となる医療機器を開発してきました。
病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦する、日本光電のチャレンジはこれからも続きます。

1950

1951年（昭和26年）
世界初の8ch全交流直記式脳波装置ME-1Dの開発に成功。同年、交直両用写真式心電計MC-1Bも発売。翌1952年、世界初の電気眼底（脳内）血圧計MOB-1、世界初の筋弱聴力計MAW-1「ホワイトノイズオージオメータ」、日本初の全交流直記式心電計MC-2Dを発売。電気眼底（脳内）血圧計は当社の特許第一号として出願。

世界初の全交流直記式脳波装置 ME-1D（復元図）

1954年（昭和29年）
筋電計MM-20を発売。筋電図・誘発電位検査装置は、ニューロパックのペットネームで国内No.1の実績。

交直両用写真式心電計 MC-1B

1956年（昭和31年）
日本初の血流用電磁流量計MF-1を発売。

1957年（昭和32年）
熱書式1ch携帯型心電計MC-2Hを発売。

1958年（昭和33年）
ソニーと提携、一般向け補聴器を日本光電が制作、ソニーブランドで発売。

1960

1960年（昭和35年）
以後ロングセラーとなる日本初の多用途監視記録装置（ポリグラフ）RM-150を発売。

1965年（昭和40年）
日本初の直流式心室細動除去装置（デフィブリレータ）MDV-1を発売。

国産第1号重症患者集中モニタ装置 ICU-80

1967年（昭和42年）
日本では初めての重症患者モニタICU-80を東北大学医学部に納入。

1970

1972年（昭和47年）
自動血球計数器MEK-1100を発売し、血球計数器市場へ参入。現在、血球計数器小型機市場は当社の得意分野に。

心電図伝送解析システム1号機

1973年（昭和48年）
琉球大学保健学部附属病院に納入した「心電図伝送解析システム」の心電図電話伝送の公開実験に成功（那覇市～石垣島）。

1975年（昭和50年）
当社の青柳卓雄が発明した「パルスオキシメトリー」の原理をもとに開発した、世界初のイヤオキシメータOLV-5100を発売。センサをはめるだけで動脈血中の酸素飽和度を測定できる画期的な技術。

イヤオキシメータOLV-5100

1976年（昭和51年）
世界初のテレメータ式患者監視装置ICU・CCU-6000シリーズを発売。ケーブルから解放され、患者さん、医療スタッフの負荷軽減に大きく寄与。

1979年（昭和54年）
宇宙開発事業団（NASDA、現 宇宙航空研究開発機構 JAXA）のスペースシャトル計画に参加。スペースシャトルでの宇宙実験の際に使用する機器の調査・研究・開発業務を委託され、赤外線テレメータ等のライフサイエンス実験装置を開発。

1980

1980年（昭和55年）
日本初X線写真の邪魔にならない使い捨て電極を開発。

ハートモニタ OMP-7201

1981年（昭和56年）
ハートモニタ OMP-7201「ライフスコープ11」を発売。ロングセラーとなる。

1985年（昭和60年）
世界初の呼吸総合モニタ OMR-7101を開発。翌1986年、日本ME学会新技術開発賞を受賞。

1986年（昭和61年）
松戸市で我が国初の救急車による心電図伝送公開実験を実施。

ECG-8210

1987年（昭和62年）
世界で初めて、記録前に心電図を確認できる液晶モニタを搭載した画期的な心電計 ECG-8210を開発。

1988年（昭和63年）
日本初の動物専用血球計数器 MEK-4150を開発。

1990

1990年（平成2年）
日本初のデジタル心電図テレメータの医用テレメータ WEP-8430・8440を発売。

1991年（平成3年）
世界初のデジタル・マルチパラメータテレメータ式ベッドサイドモニタ BSM-8502を発売。

BSM-8502

1998年（平成10年）
ポケットCO_2モニタが科学新聞賞・新技術開発賞を受賞。医用イオン感応性電界効果トランジスタ(ISFET)製造に世界で初めて成功。

1999年（平成11年）
世界初のパルス式DDGアナライザ開発。科学新聞賞・新技術開発賞を受賞。

2000

2000年（平成12年）
胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ菌を検出するピロリ菌ウレアーゼ測定器 PYL-1100 を発売。ヘリコバクター・ピロリ菌の検出に関して特許を取得。
また、麻酔分野で、日常的な気管内挿管はもとより、挿管困難な場合でも患者さんの負荷を軽減し、気管内挿管をスムーズに行うことのできる新発想の挿管器具「スタイレットスコープ」を開発。

スタイレットスコープ ISS-1100

2002年（平成14年）
フローサイトメトリーによる白血球5分類機能付きの全自動血球計数器MEK-7222を発売。

2003年（平成15年）
メインストリーム式で、挿管していない患者さんに使用できる超小型CO_2センサを世界で初めて発売。CO_2モニタリングの新しい時代を開拓。

送信機 ZS-940P

2004年7月（平成16年）
世界初、心電図、呼吸、SpO_2、非観血血圧のワイヤレスモニタリングが可能な送信機ZS-940Pを発売。

2007年（平成19年）
術中神経機能モニタリング装置 MEE-1200発売。

2009年（平成21年）
国産の自動体外式除細動器 AED-2100を開発。AED-2100とその周辺プロダクツが2009年度グッドデザイン賞を受賞。

2010

2010年（平成22年）
ガイド機能を搭載し、誰でも迷わず安心して使えるベッドサイドモニタ PVM-2701を発売。

ベッドサイドモニタ PVM-2701

2013年（平成25年）
糖尿病の診断、血糖コントロールの指標であるヘモグロビンA1cとC反応性蛋白を簡単かつ迅速に測定できる、臨床化学分析装置CHM-4100 セルタックケミを発売。

2014年（平成26年）
小型・軽量・堅牢でデータトランスポート機能を搭載した、ベッドサイドモニタ BSM-1700シリーズ ライフスコープPTを発売

ベッドサイドモニタ BSM-1700